

【うなぎプロジェクト】

提案者 里山ねっと三ヶ日

これまで河川管理といえば、その主眼は利水と治水のみに限定されたコンクリート護岸等の機械工学的河川改修でした。河川管理において人命の安全性や財産の保全を重要視することは最優先であると理解していますが、このコンクリート護岸工法等の一つの弊害として、河川と森や田んぼや湖との繋がりを狭小化させ生物の多様性とその生息空間を多分に失わせて来たことは、メダカが絶滅危惧種化されたりウナギについては漁業資源の枯渇が懸念されたりしている事からも明白です。

里山ねっと三ヶ日は、この地域の里山や自然環境の再生復元に繋がっていくことを期して『水田ビオトープ』を管理し、農薬や除草剤を使わない古代米栽培を通じた農業体験や食農教育等の活動、自然観察会等を展開して5年目を迎えました。そして、この谷津田（やつだ）とも称される田んぼ空間は、多様な生き物達の温床・保壘地として貴重な場所であると位置づけられ、さらに森や河川そして湖など周辺環境とも密接に繋がっていることもわかってきました。

里山ねっと三ヶ日では、嘗てはこの水田や河川上流部にまで遡上（そじょう）し、海とも行き来をしてきた『うなぎ』の生命力と神秘性に注目しました。そして『うなぎ』が食文化としても広がっている浜名湖地域の特性も絡め、生態系の上位種でもある天然の『うなぎ』をひとつの環境再生のためのメルクマール（指標）として位置づけ意識することで、広く環境を考えることができます。浜名湖近辺に暮らすそれぞれの団体や個人一人一人が『うなぎ』を意識し、それぞれの立場や場所で出来る事を一つ一つ考えて行動することで『うなぎ』が暮らせる環境を取り戻すことができ、結果として美しく多様な自然環境を守ることにもつながり、農林漁業や工業といった産業や、商業や観光業、何よりこの地に暮らす生活者や子供達の未来に至るまで、住みやすく自慢のできる良い環境になると思うのです。

つまり、『うなぎ』は環境活動への関心を広げる一つの「きっかけ」であると共に、個々の環境活動をつなげる「共通の目標」となりえるのです。

それが里山ねっと三ヶ日の提案する【うなぎプロジェクト】です。